

[名勝の追加指定]

名称 ひこさんていえん
英彦山庭園

きゅうざすいんごほんぼうていえん 旧座主院御本坊庭園 きゅうざすいんおしもやていえん 旧座主院御下屋庭園 きゅうまんどころぼうていえん 旧政所坊庭園

きゅうせんぞうぼうていえん 旧泉蔵坊庭園 きゅうけんようぼうていえん 旧顕揚坊庭園 ひこさんじんぐうりよでんていえん 英彦山神宮旅殿庭園

住 所 福岡県田川郡添田町大字英彦山字上谷1346番2
福岡県田川郡添田町大字英彦山字上谷669番他5筆

今回の指定面積 10,595.09㎡

指定総面積 11,357.09㎡

指定経過

昭和3年2月7日 指定 内務省告示第20号

指定地の概要

福岡県東南部、大分県との県域に位置する英彦山は、標高約1,200mの南岳・中岳・北岳の三峰から成る信仰の山です。国内を代表する修験道の霊山で、古代から近世に至る信仰や宗教活動を示す多数の遺構が良好に保存されています。

これまで、旧亀石坊庭園が雪舟作庭伝承から英彦山内で最も古く築かれた庭園として考えられています。庭園は山裾に池泉を有する観賞式の庭園、底の浅い池泉、大きな滝添石で構成された滝石組、池中に配された天端の尖った立石、池に張り出した護岸石などの特徴的な意匠であり、「山岳地ニ於ケル築山泉水庭ノ古園トシテ佳作トスヘシ」として評価され、名勝に指定されています。

今回、添田町教育委員会による平成28年度～平成30年度の3ヶ年に亘る英彦山庭園調査の結果、英彦山において60箇所を超える庭園の存在が明らかになりました。その中で、追加指定をする6つの庭園遺構は、室町時代から江戸時代にわたって営まれた英彦山の庭園文化の様相を表しており、日本庭園史上極めて重要であることから「英彦山庭園」の総称の下に一体の庭園群として追加指定するものです。

[今回追加指定する庭園]

旧座主院御本坊庭園 1573～1593（天正年間）頃築庭 見学不可

旧座主院は英彦山南谷に位置し、現在は九州大学農学部英彦山生物学実験施設となっています。御本坊は英彦山の最上位の役職であった座主の居所で、敷地の最上段に位置し、座主謁見の間（虎の間）に面した大泉水として残されています。

旧座主院御下屋庭園 築庭年代不明 見学不可

座主院御本坊から西方の下段に位置し、御下屋庭園は建物跡に伴う園池跡の遺構から旧亀石坊庭園と同様の英彦山庭園の特徴的な地割構成がみられます。

旧政所坊庭園 1596～1615年（慶長年間）頃築庭 常時見学可

政所坊は上谷最上段に位置する「暖坊（あつかいぼう）」と呼ばれた座主血縁の坊家で、旧亀石坊ともに座主代を務める有力坊でした。敷地には旧亀石坊庭園と同様に大ぶりの配石を持つ池泉庭園が残されています。

旧泉蔵坊庭園 室町時代頃築庭 見学不可

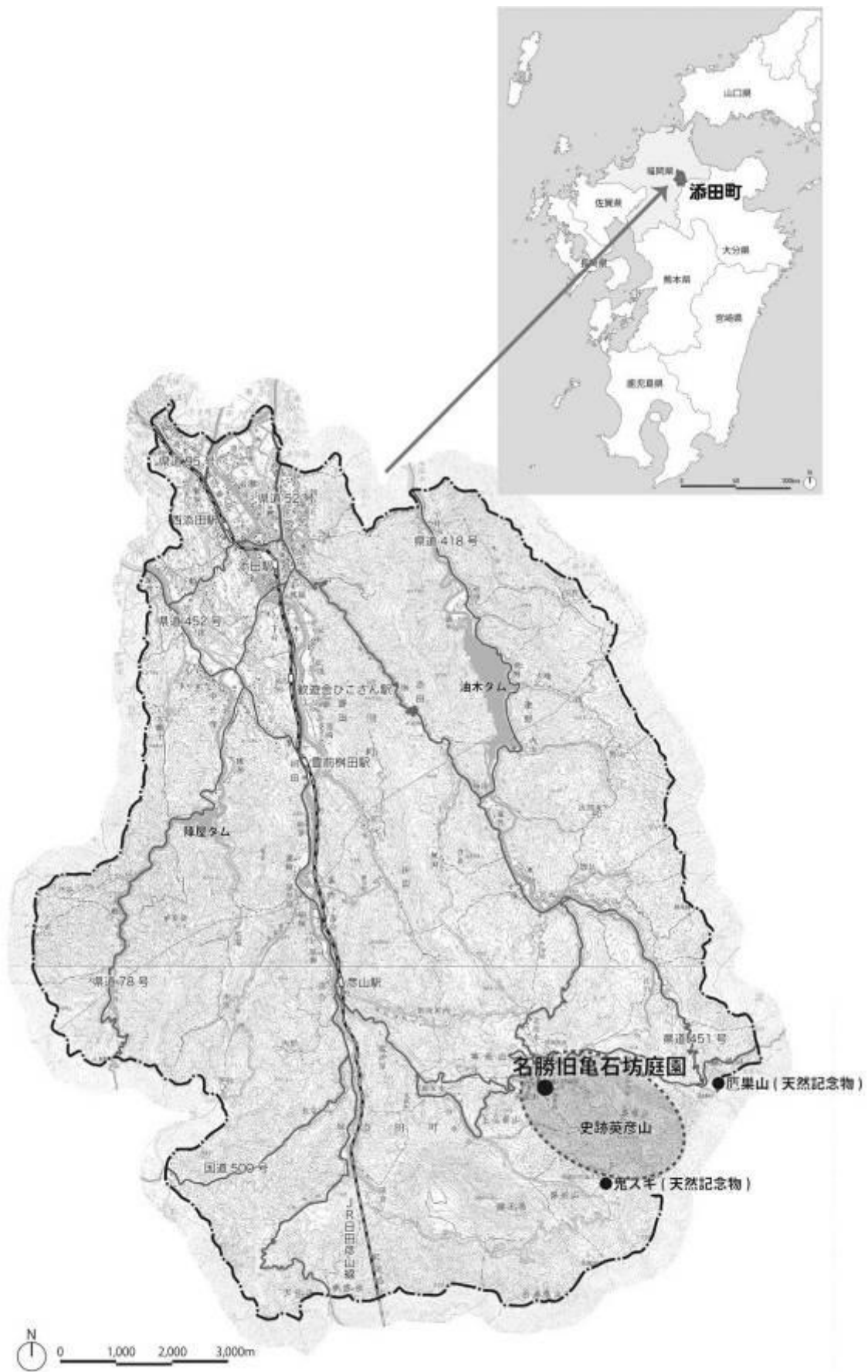
旧泉蔵坊は英彦山参道から南約 1.2 kmに位置する玉屋谷の最上段に位置し、画聖雪舟が逗留して作庭した伝えられる池泉庭園があります。この庭園は東側斜面の山裾に園池を有する池泉観賞式庭園で、枯池となっていますが当時の状態を良く維持し、大ぶりの滝石組や池泉護岸に英彦山庭園の特徴が見られます。

旧頭揚坊庭園 1661～1673年（寛文年間）頃築庭 見学不可

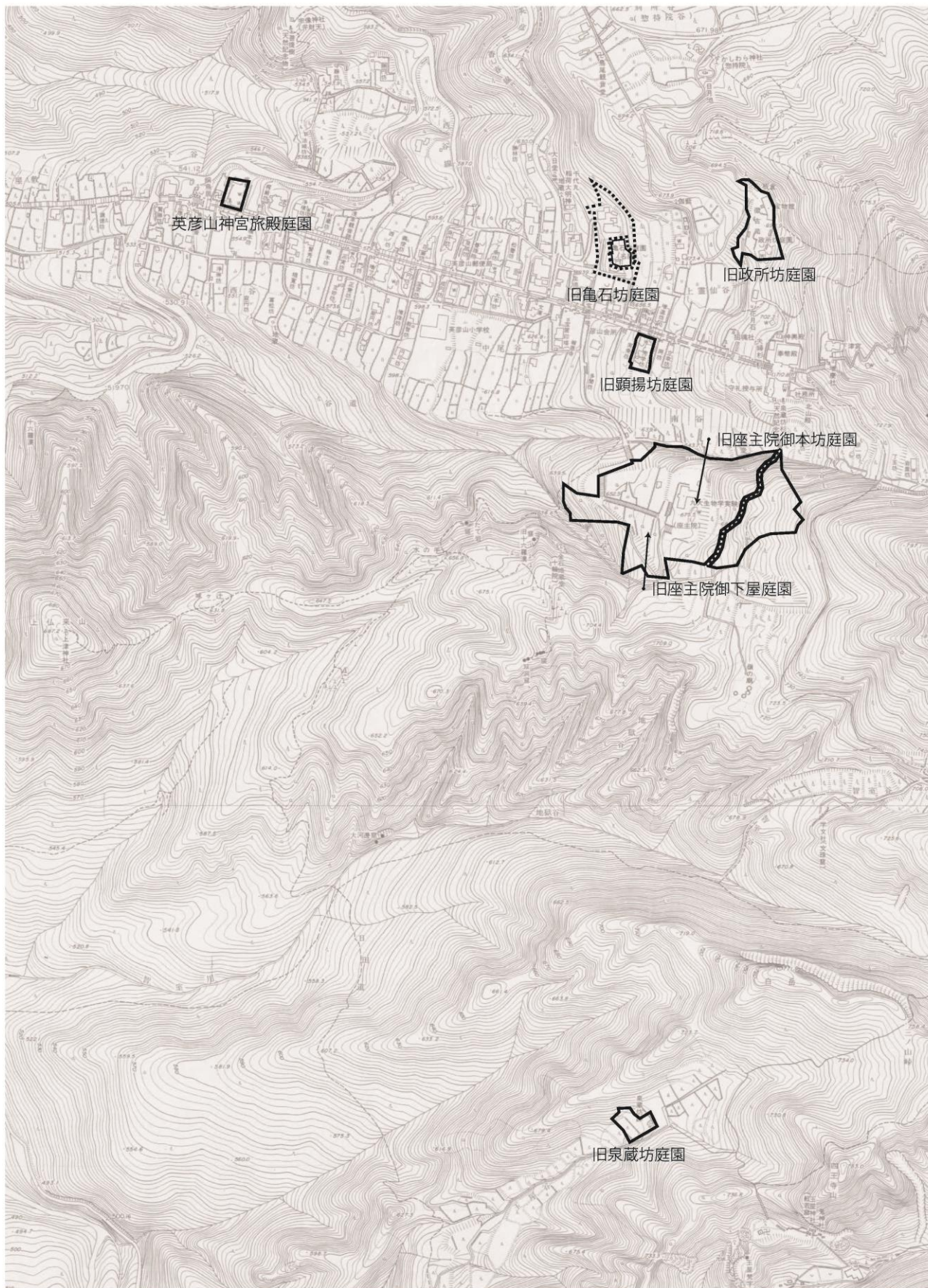
旧頭揚坊の参道南側の中尾谷に位置し、1830～47年頃（天保～弘化年間）建築と考えられる坊舎に面して池泉観賞式庭園があります。坊舎と池泉の地割との関係をよく維持しており、座視鑑賞を目的とした特徴が見られます。

英彦山神宮旅殿庭園 1700年頃築庭 常時見学可

旅殿は銅鳥居横の参道北側に位置し、現在も英彦山神宮神幸祭の神興行幸の御旅所として使用されています。建物前面が祭礼奉納の斎庭となっていて、その東側に浅い池泉庭園があり、瓢ひさごがた型池泉の中央に石橋が架けられています。



名勝旧亀石坊庭園位置図



英彦山庭園範囲図

- 既指定範囲
- 追加指定範囲
- 保護を要すべき範囲



旧亀石坊庭園（上 池泉石組 下 滝石組）



旧政所坊庭園



旧顯揚坊庭園